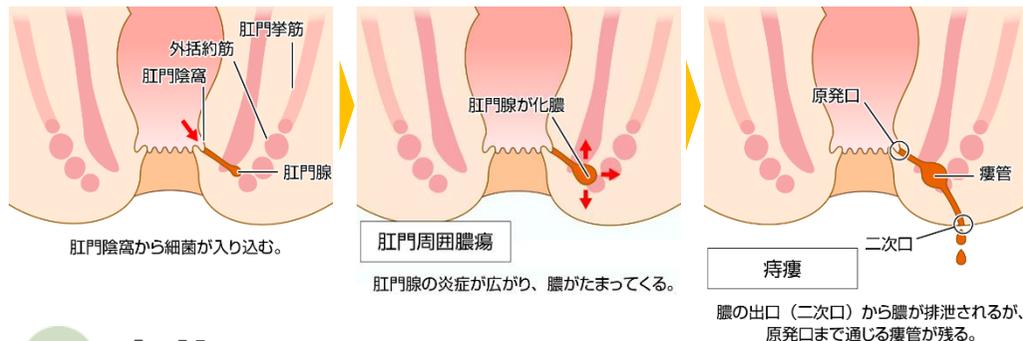


痔瘻(じろう)

原因

皮膚と直腸のつなぎ目の、でこぼこした部分を歯状線しじょうせんと呼び、これより下の部分が肛門こうもんです。歯状線には、肛門陰窩こうもんいんかと呼ばれる上向きのポケットがあり、粘液ねんじょを出す肛門腺こうもんせんと呼ばれる腺があります。小さなくぼみなので、通常はここに便が入り込むことはありませんが、下痢げりをしていると、便が入りやすくなり、肛門腺に大腸菌などの細菌が入り込むことがあります。すると肛門の内側が化膿かのみし、その炎症が肛門周囲膿瘍こうもんしゅういのみようといえます。これが自然に破れるか切開することにより、膿は排泄はいせつされますが、そのまま治癒せず膿が出た時の通り道がトンネルろうかんとして残った状態を痔瘻じろうといえます。

痔瘻は圧倒的に男性に多くみられます。また、男女ともに30～40代での発症が最も多いとされています。



症状

肛門周囲膿瘍では、肛門周囲における突然の痛みを伴う腫脹と発赤です。時には38～39℃の発熱を伴います。痔瘻になると持続的な膿の排出がみられ、時に出血も伴います。

診断

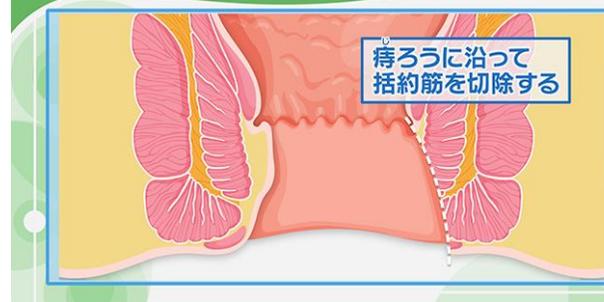
肛門の診察（指診と肛門指診）で発赤と腫大を確認します。痔瘻の出口（二次口）があると診るだけで診断できます。一般的にCT検査やMRI検査で炎症や膿の広がりを確認します。施設によっては経肛門の超音波検査や肛門内圧測定を行うこともあります。

治療

痔瘻は薬では治らないので、外科的治療が必要となります。

肛門括約筋こうもんかつやくきんに損傷を与えると排便障害を来すので、手術はこれを考慮してされます。おもな手術法は、①瘻管に沿って切開する切開開放術。②瘻管をくりぬく括約筋温存術おんぞんじゆつ。③瘻管にゴム紐を通してゆっくりと切開していくシートン法おんぞんじゆつ。があります。

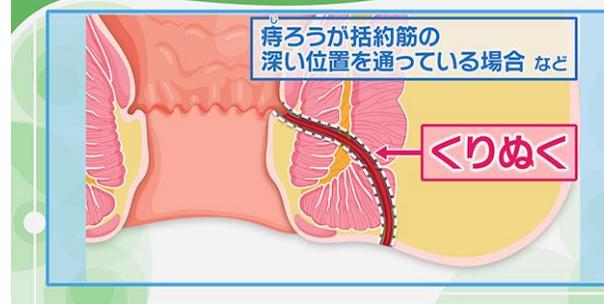
切開開放術



切開開放術は、痔瘻形が単純で、括約筋の比較的浅い位置を通っている場合に行われる手術法です。

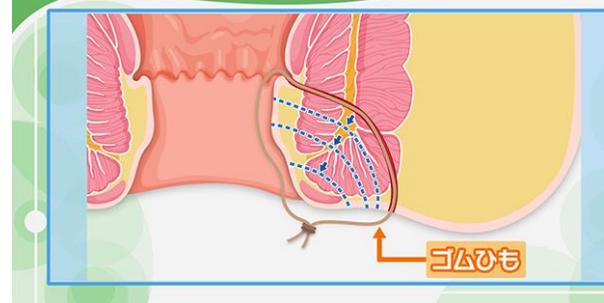


括約筋温存術



括約筋温存術では、痔瘻の入り口から出口までをくり抜くように切除します。瘻管が括約筋の深いところを通っていて、切開開放術では肛門の機能を損ねる恐れがある場合に検討されます。

シートン法



瘻管にゴムひもを通して縛り、ゴムが縮もうとする力を利用して、ゆっくりゆっくり括約筋を切開していきます。少しずつ括約筋を切開していくことで、括約筋の損傷が少なく済みます。